

【東京平和構築シンポジウム2008】

外務省・国連大学共催080324@国連大学

「アジアにおける平和構築の経験

-現場の声に耳を傾ける」

第1セッション「カンボジア」

コメント 『平和への道のりと教訓

-NGO・CSOの経験と視点から』

熊岡路矢

(カンボジア市民フォーラム共同代表世話人



トンレサップ川をさかのぼる(古都ウドン山頂より)



小学校



お寺



村の乗合バス



診療所



お坊さん

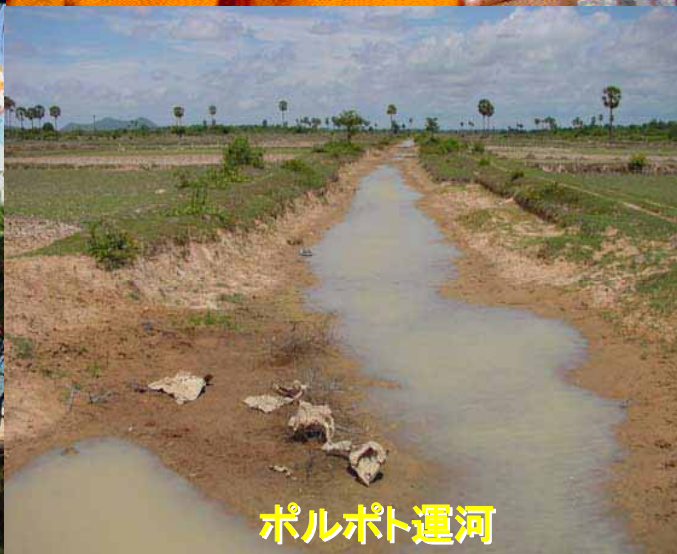
村の社会生活



モトドップ




人民党



ポルポト運河



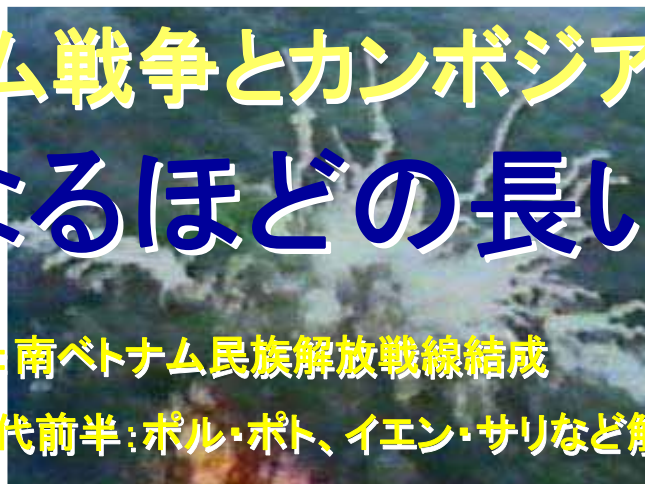
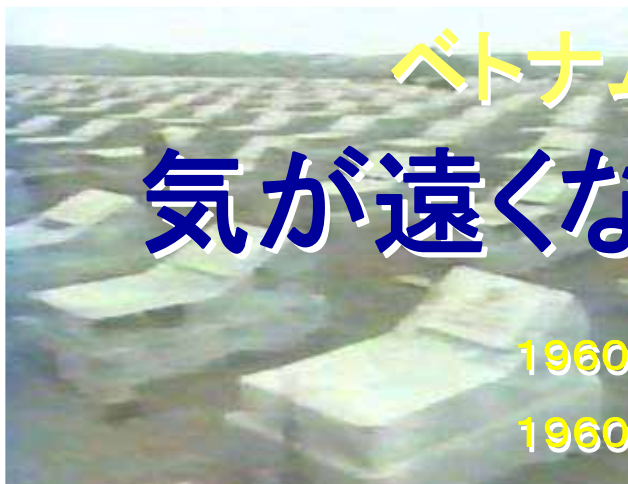
自転車通学



メコン川は、雨季に水位を上昇させ、トンレサップ川をさかのぼって豊かな漁場・トンレサップ湖を作り出す



ベトナム戦争とカンボジアの内戦 気が遠くなるほどの長い戦い！



1960: 南ベトナム民族解放戦線結成

1960代前半: ポル・ポト、イエン・サリなど解放区へ

1965: 対米断交

1970: ロン・ノル政権誕生

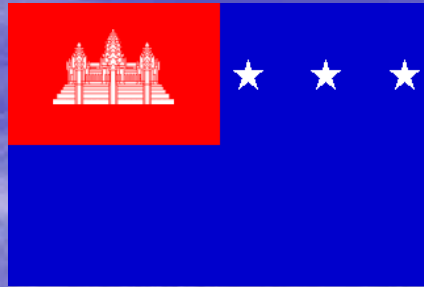
1975: ポル・ポト軍、プノンペン入城



2) 歴史-独立後の4つの政権とその指導者たち



カンボジア王国
1953～1970年



クメール共和国
1970～1975年



民主カンプチア
1975～1979年



カンプチア人民
共和国
1979～1989年



ノロドム・シハヌーク



ロン・ノル



ポル・ポト



ヘン・サムリン

※カンプチア人民共和国は1989年4月、国名を「カンボジア国」に改称

ポルポト派による大量虐殺の悲劇

(推定死亡者170万人＝総人口の4分の1)

ほとんどの人が家族の誰かしらを失っている

国民議会選挙と行政村選挙



2008年3月24日

2) 歴史-パリ和平協定後15年間の時代区分

① 国連による暫定統治期

: 1991年10月～1993年9月

② ラナリット第1首相とフン・セン第2

首相の蜜月期: 1993～1996年

③ フン・セン人民党体制の確立期

: 1997～1998年

④ 権威主義体制下での政治的

安定期: 1999年～現在



選挙・選挙後の混乱(98および03年)



「カンボジア：平和への道のりと教訓」

1) カンボジア紛争＝冷戦構造下の国際紛争

2) (KR時代の破壊と)80年代の孤立・内戦

＝人道支援と停戦・平和への外交

「中立」＝①国連機関一部、②北欧諸国、③NGO

現場型実働型NGOの平和提言

「カンボジア国際NGOフォーラム」による行動と提言

『仲介者・調停者の大事さ』

「カンボジア：平和への道のりと教訓」

平和／平和協定をもたらしたものの

(国際紛争) 国連、超大国、大国などの関与とカンボジア政治勢力の和平協議は必要であった。

1) **カンボジア人の声: No more killings! No more bloodshed! No more suffering! Enough is enough!** 指導者たちを動かした。

2) (東南アジア) 地域の国々の調停と協力。

3) 世界のNGO／市民社会の声

(和平協定) カンボジアNGO誕生＝大きなインパクト

演劇を通じての有権者教育(NICFEC)



2008/4/10

2008年3月24日

13



農村開発とカンボジアNGO



「カンボジア：平和への道のりと教訓」

教訓1) 地元の智恵・文化・価値を中心に。

抗争4派による和平会談を、政治を超越する宗教的権威であるマハ・コサナンダ師が象徴的に祝福・統括。村レベルでも(仏教、イスラムをふくむ)文化的社会的価値や長老が、和平・和解へのまとめ役となる。

ECCC: 地元のオーナーシップの尊重(ルワンダでも)

統合の象徴(例): シハヌーク前国王・マハ・コサナンダ師など

「カンボジア：平和への道のりと教訓」

Maha Gosananda師



サラヴァン・テコ寺院(プンペン市内)1991年12月) カンボジア人権・開発協会(ADHOC)の発足



現在-クメール・ルージュ裁判へ

- 1998年4月、ポル・ポト死去、1998年12月、ヌオン・チアとキュウ・サンパンが政府に投降。
- 1999年3月、最強硬派のター・モック元参謀総長の拘束・死→反政府勢力としてのKRの終焉。
- 2008年裁判へ。



「カンボジア：平和への道のりと教訓」

教訓2) 平和の定着には、経済発展-貧困問題の解決が重要である。「生きていけること」
極端な貧困（「身体を売るしかない」）の存在、
極端な貧富の差は必ず次代の紛争に繋がる。
当該政府も、国際社会も、基礎教育・基礎保健、
地域開発等を通しての貧困問題解決と、
『セーフティ・ネット』の構築に全力を注ぐ。（06
年カンボジア市民フォーラム・国際シンポジウム@東大の結
論の一つ）

内戦・クーデターは終わったが。



自然資源の乱獲

環境と農民の生活の破壊

土地問題



タイの2.7%を上回る5%近い
発生率を見る深刻な事態



格差の拡大と
競争の激化

和平の成立によって市場経済が導入され、「HIV/AIDS問題」、「環境破壊」、「土地問題」そして「格差拡大」という新たな問題が生じた

カンボジア人自身による「自立・安心」の村づくりを





貯蓄から始める、女性相互扶助
グループ(小規模ビジネス)

「カンボジア：平和への道のりと教訓」

教訓2)

- * 紛争地特有「暴力の文化」「Impunityの文化」からの脱却が難しい。(固有の宗教・文化価値からのアプローチ)
- * 民主的ガバナンス、社会的発展と連携して進む真の経済発展(貧困問題の解決に向けて)
- * 土地問題の解決。独立した司法が必要。
- * 「反腐敗法」の制定と内容の実現

「カンボジア：平和への道のりと教訓」

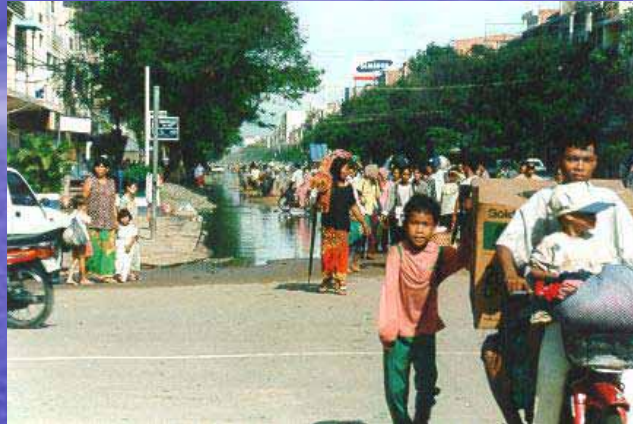
3) UNTACもしくは、一般的にはPKO, 国連・国際社会による関与の問題:

グオン氏の論点。「KR対応、武装解除が十分できていれば、97年の政治的混乱はなかったのでは。」

国連予算・財政の問題とも関連するが、引上げの時期の問題、あるいは段階的縮小が可能か。

(* UNTACの下で、多くの地元NGOと人材が育ったことを高く評価。 / 経済的インパクトへの評価)

歴史(現状に繋がる)-1997年7月武力衝突





小学校



お寺



村の乗合バス



診療所



お坊さん

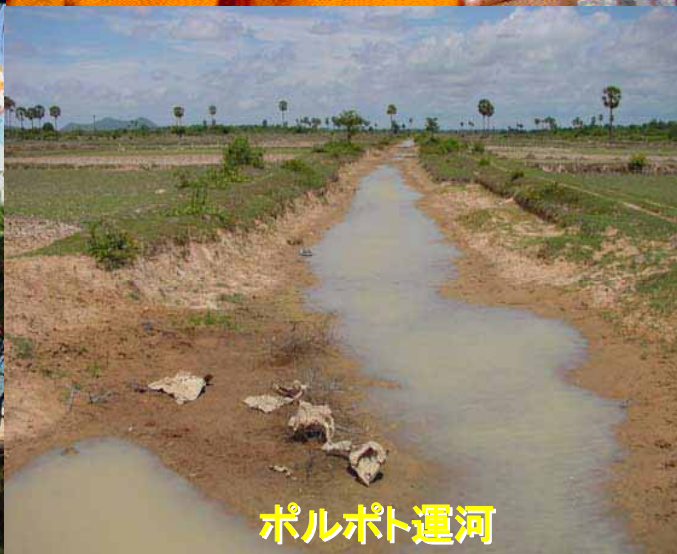
村の社会生活



モトドップ



人民党



ポルポト運河



自転車通学

ご清聴有難うございました。

カンボジアのみならず、スーダン、パレスチナ、イラク、アフガニスタン、スリランカ、ネパール、東チモールなど、現在進行中の紛争の解決および、紛争後の総合的な復興(社会経済の復興、和解、民主的統治、社会発展)を祈ります。